

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」和歌山小雑賀校		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 21日 ～ 2025年 12月 29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年 10月 21日 ～ 2025年 12月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間で常に連コミュニケーションが取れており、チームで連携をした支援を行うことができている。	御利用者様の様子で気になることや、支援の相談など、日常的に職員間で行う環境が出来上がっている。	引き続き今の環境を継続しながら、支援の質を高めていくために職員同士で良い刺激を与え合っている。
2	職員それぞれの良さや得意なことを支援に活かすことができている。	指導員それぞれの専門知識や、個々の人柄・良さを活かしながら、御利用者様・保護者様に寄り添う姿勢を大切にしている。	支援の経験値をさらに上げていき、スキルアップを目指すことで、より良い支援を継続を目指している。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	振替・追加のご希望をいただくが定員の関係でご希望に添えない時がある。	多くの御利用者様に利用していただいているため、定員の関係でお受入れが難しい日がある。	キャンセル待ちなどをご利用いただいているが、できる限りご希望に添えるように引き続き調整を行っていく必要がある。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」和歌山小雑賀校（児童発達支援）

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 15

回収数 11

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	2	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	0	0	0	活動後に話をする時は別の職員の方が子どもの相手をしてくれる。	引き続き、ご対応していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	1	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	1	0	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	0	0	3		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	1	0	1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	0	2	4		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	0	0	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	10	0	1	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2	1	3	兄弟への支援は今のところないと思います。	イベント時など、ご兄弟様も参加していただきご家族様支援も行っていますが、兄弟をメインとした支援は行えていません。今後の課題としていきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	1	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	1	子どもの近況を聞いてくれて活動内容に反映されていると思う。	引き続き近況を聞いて支援に反映していきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10	1	0	0	活動の様子を写真で見せてくれたり子どもの様子が分かりやすい。	引き続き行っていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	0	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	0	0	4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	0	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11	0	0	0	最初は手を引いて一緒に行こうとしていたが、今は振り返らずに安心して活動している。	引き続き、安心して来所していただけるように、御利用者様との信頼関係を大切にに取り組んでいきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	0	0	0	車から嬉しそうに降りて積極的にドアから入っていく。	楽しみにしていただいているご様子、ありがとうございます。引き続き楽しんで通っていただけるよう、工夫してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	0	0	0	子どもが好きなキャラクター、おもちゃを使って楽しめるよう考えてくれていると思います。	お子様にご満足いただけますように、プログラムの内容を工夫し、より良い支援を行っていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」和歌山小雑賀校（児童発達支援）					公表日	2025 年	2 月	14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		自由に空間を作り出すことができるので適切であるとする。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	御利用者様のご希望に添える支援ができる人員である。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		安全に支援ができる生活空間が確保されている。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		机を移動できるので、活動に合わせた空間が配慮されている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室があるので、認められる環境である。					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		常に職員が話し合い、業務改善に努めている。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様にご意見を聞き取りできる限り義務改善につなげている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1on1等で、1人1人の意見を尊重するようにしている。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は特に行っていない。					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		できる限り研修に参加するようにしている。					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		フィードバック等でプログラムを立案するなどして作成、公表している。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		ニーズや課題を理解し、保護者様の意見を把握し作成している。					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		御利用者様の現状を見極め検討している。					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		常に職員間で支援内容を共有している。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールを用いて日々、確認できている。					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		子供の成長に合わせた支援に必要な項目が設定され、工夫した内容が設定されている。					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々支援内容の引継ぎを共有している。					

バ	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		成長に合わせて固定化しない様に工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		イベントに積極的に参加にしろ、集団活動と個別活動を組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		担当職員だけでなく、連携しながら支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	朝の時間などで気になった点の共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録は必ず残し、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングの際には、必ず保護者様の意見を取り入れ、見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者だけでなく、担当指導員も参加できるときは参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		ケースカンファレンスや、学校と連携して支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	それぞれの能力や、個性を最大限発揮して活躍できるように、情報共有を必ず行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	学校に訪問したり、電話連絡を行うことで情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			地域の研修は受けていないが、社内の研修は月1回受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	参加していない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		フィードバックで支援後に保護者に伝え、共通理解を得ている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	研修はしていないが、家族支援やママカフェで情報共有している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に必ず説明し、請求書をお渡しする際にも同意を得ている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングを通じて、意向の確認をした上で作成している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画により同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援を行い、できる限りをお話を聞くようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		ママカフェを実施し、交流する機会を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があれば、真摯に受け止めて対応します。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSを活用して、発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		カギを毎日占めて保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		デリケートな部分もあるので、配慮を心かけている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	実施していない。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に1回防災訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者様と常に情報共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食品を扱う際には、必ず保護者様に確認をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全管理が十分なうえで支援をしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に必ず説明し、同意を得ている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を共有し、事故がないように努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、話し合いをしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明を行っている。	